第 2016-41 号

恵みと真理のニュース

2016 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 私の全ての家族がイエス様を信じて楽しい心で主の事をしながら教会を愛し聖徒を仕えるように神様は恵みを与えてくださいました

私は神様を信じない家庭で７人兄弟の中で５番目で生まれ育ちました。父の性品はとても厳しくてその一方で母の性品は優しくて慈愛に満ちていました。家の家計が豊かではなかったですが、兄弟達と仲良くしました。ところが、兄弟の中で一番私が気が強くて父からたくさん叱られました。そうしながら、父に対する反抗心があって、体も弱くて病気によくかかりました。

私は心が固くなってイエス様を信じる二番目のお姉さんと妹から伝道を受けるときに私は"神様がいるとなぜ悪い人が問題なく生活したり、様々な悪い事を話して教会に行くのを拒否しました。また、隣に住む執事が伝道する時、"私は罪を犯さなくて生きることが出来るから教会には行きません。これから罪を犯さなくて生きることが出来ない時には考えてみます。”伝道しないようにしました。当時は私達の人間は罪人で生まれた事実を知らなくて理解できませんでした。どころがある日夢を見ました。体がとても痛い時にかろうじて寝ましたが、空で飛行機が私を ずっと追いかけてくる夢でした。私は怖くて赤い煉瓦造りの家の中に入って隠しました。そして、暗いの中で目をつぶして両手で顔を隠して恐れていましたが、急に眼が明るくなって自分も知らずに目を覚ましました。煉瓦の間に明るい光が入ってきながら起きました。その瞬間、私に伝道した人から聞いた話が思い出しました. “この暗い世の中でイエス様だけが光である。”という言葉が思い出しました。“そう、イエス様が私を呼んでいる。意地を張らなくてイエス様を信じよう。”その後すぐ、教会に行きました。初めて礼拝を捧げたにも説教が耳に入り恵まれました。

礼拝が終わるまで恥を知らずに限りなく涙を流しました。真に悔い改めて主を受け入れました。イエス様を知らなくて生きていた時間がもったいなくて後悔になりました。私のため祈って熱心に福音を伝えた姉と妹と執事に恥ずかしくて申し訳なかったです。人格的に神様を会えるように願いながら祈って聖霊洗礼を受けました。すると暗くて見えなかった世の中が暗かったのに明るくて美しく見えるようにしました。" 何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。”（箴言４：２３） 主イエス.キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。”（ フィリピの信徒への手紙２：５）

このような御言葉を黙想して熱心に説教を聴き祈る中で私の短気な性格が温柔な性格で変えて、 内向的で憂鬱にした性格が明るくて積極的な性格で変化しました。恨みと悲しみと憎みを考えなくて信仰と愛と希望を考えて祝福話を多くしました。神様は私にあいする心を与えてくださりその愛を表現する喜びを知るようにしてくださいました。

救いを受けた意味と幸せについて知ってから親の兄弟が救われるように、真実に配偶者に出会うように具体的に祈りました。信仰が強くなるほど祈りの時間と伝道する時間が楽しくて教会の生徒のため奉仕知ることがやりがいがありました。それで児童区域、教会学校、聖歌隊、区域の自分に任された所で忠誠しようとしました。私が熱心に教会を仕える姿を見て父は"教会に行くと食べるのものをくれるのか？いい加減にしなさい。と話して、私は"教会に行って親孝行しなかったり、悪い事をすると叱ってください。そうすると教会に行きません。”と答えました。

私が教会に通った後、もっと熱心に生きて、健康で幸せな生活で変化された姿をずっと見た父は叱らなくてたまには褒めてくださいました。その後、親もイエス様を信じて仕える信仰生活をして、私たちの子供たちが讃美歌を捧げる中で明るい顔で天国に行きました。親も救われて天国に行ったのは神様が私に与えてくださった恵みの中で恵みです。

私が具体的に祈ったことが神様の時になると一番良いもので答えてくださいました。祈った通り旦那に出会って結婚して健康な信仰の家庭を作ろうと約束しました。共に膝をまずいて神様の導きと助けを願いながら一番はいつも礼拝中心の生活をして二番目はどんな状況でも十一献金をして三番目は主の所に行く日まで忠誠奉仕するように決心しました。私が旦那に"あなたと私の間には主がいらっしゃるので主より愛してはいけないです。そして、主の子供として恥ずかしくないようにいつも真面目に生きましょう。”と旦那に約束を受けました。

私の夫婦は今日までその約束を守るため努力しながら行きました。共に苦難がある時には助けてくださいと祈りをして喜ぶ時には感謝の祈りをして互いに愛して勇気を与えて生きて来ました。私の夫婦は共に"私が今までいるのは神様の恵みです。”信仰告白しました。生活しながら 天が崩れ落ちるような危機の瞬間もいて、多くの日、悲しみと嬉しさが行き交ったが、、時によって助けてくださる神様の恵みがあったので今日まで相変わらず主を信頼して愛することが出来ました。

今私たちの家庭は３代が一つの家で幸せに暮らしています。私たちの夫婦は長老と勧士の職分を受けて教会と生徒を仕えて息子と孫達も聖歌隊員として、嫁は聖歌隊の範奏者と児童区域長として奉仕しています。したがって、私の家で賛美を歌うので本当に感謝します。私を伝道したあねと妹も恵みと真理教会で勧士になって熱心に教会を仕えています。また、主の中で真の福です。

私の家族は一つの心で恵みと御言葉で充満な恵みと真理教会を愛します。神霊な御言葉で慰められ力を与えてくださり生徒のため祈ってくださる当会長を愛し、また、教会の全ての生徒たちを主の中で愛します。私が聖なる神様に大胆に祈る主の子供になって主の前で立つ日、主から褒められる子供になるのを願いながら、神様に全ての栄光捧げます。

すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るように。 そして、神の栄光の力に従い、あらゆる力によって強められ、どんなことも根気強く耐え忍ぶように。喜びをもって、 光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてくださった御父に感謝するように。（コロサイの信徒への手紙１：１０～１２）

［信仰コラム］ あなたがたも用意をしていなさい

"...だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。”（マタイによる福音書 24:40～44)

イエス様が再臨なさる理由は信者達に救いに含まれている全てのことを完全に享受させるためであります。復活と報い、新たなエルサレムで永遠に暮すことが全て救いに含まれていることです。イエス様の再臨に関して記録されたお言葉を詳しく調べてみると大艱難の前に聖徒達を連れにくる再臨とその時から 7 年後にこの世を直接審判なさるためにお越しになる再臨の二段階に分けられています。イエス様が再臨なさる時に聖徒達を連れていく理由は艱難から免れるようにするためです。イエス様の再臨に関連してノアの時とロットの時と同じであるとしました。神様は救う者を避難させた後に罪人を審判なさいました。

イエス様が再臨なさるその時、地上に住んでいる人々は上げられる人と上げられない人、連れて行かれる人と残される人に区分されるでしょう。イエス様が再臨なさる時に連れていかれる聖徒、上げられる聖徒になるためには信仰状態が完全であるべきです。イエス様がいつ再臨なさるか知らないため常に聖なる緊張感を持って備えながら楽しい心で待つべきです。

第一、謹慎してお祈りをすべきです。

ペトロの手紙一 4 章 7 節に"万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。"と記録されています。イエス様が最後の晩餐後に弟子達を連れてゲツセマネに行かれ"誘惑に陥らないように祈りなさい"と言われた後、弟子達から石を投げてとどくほど離れた所でお祈りしました。その後まもなく、弟子達が寝ているので"なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい"と言われました。再びお祈りをした後に帰ってみたら相変わらず弟子達は寝ていました。イエス様が 3 回お祈りをなさった後弟子達に"まだ眠っているのか、休んでいるのか。見よ、時が迫った。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。"と言われました。弟子達は大祭司長が送った群れがイエス様を逮捕するのを見て全て逃げてしまいました。艱難と誘惑、試しを退けて固い信仰を堅持するためには祈るべきです。私達の心霊はお祈りをすることで強くなり大胆になります。

第二、集まることに励むべきです。

ヘブライ書 10 章 25 節に"ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。"と記録されています。礼拝と奉仕、聖徒間交わりのための集まりに一生懸命参加するようお互いに勧めるべきです。イスラエル子孫達はエジプトで奴隷生活をする時には自由をくださいと神様に求めました。しかし、神様の応答により自由を得て、乳と蜜の流れるカナンに入るようになった後神様に感謝して熱心に神様に仕えたのではなくカナン部族の祭壇に行って様々な偶像を崇拝しました。健康と余裕が教会に集まることをやめさせる原因提供になるとしたらそれは福ではなく災いになります。健康と余裕は教会に集まることに使われるべきです。

第三、再臨なさるイエス様を迎えるために自分の信仰状態を続いて点検すべきです。

イエス様は花婿を迎えに出た 10 人の乙女の比喩でイエス様の再臨に備えられなかった人々の結局がどうなるかをまた、イエスキリストの再臨を予備する適当な態度が何であるかを教えてくださいました。聖書に予言されたイエスキリストの再臨の兆しがほぼ全て叶えられました。もうイエス様がお越しになることだけ残ったと言っても過言ではない時代に私達が住んでいます。イエスキリストの再臨についてどのように理解していてどのように予備しているのかを見てみるとその人の霊的状態を診断することができます。

皆さんは真心からこのような告白をする聖徒になってください。"イエスキリストの再臨について聖書に記録された通りに私は信じます。""私はイエスキリストの再臨が本日であるかも知らないという期待感を持って生きていきます。""私はイエス様がいつ再臨なさっても常に喜ばしく迎えることができるよう等しく霊的に覚醒した状態で生きていきます。"

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

禁酒禁煙は聖徒の標識です

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

先週には初代エルサレム教会から割礼の問題で初めの総会が開かれた過程をよく見ました。総会で議決されたことの中に異邦人のクリスチャンには割礼を受けさせる必要がないということと首をつって殺した獣と血を禁ずるようにしなさいという内容がありました。 そして割礼がどんな疾病の予防に関連があるという事実と獣の血を食べることが健康に有害であるという医学的な証拠をよく見ました。 神様がくださった律法には私たちの健康のための神様の思いやりがその中にあるのが分かります。 今日は聖書で禁じているものの中に脂肪とお酒の弊害に対してよく見ます。そしてタバコまで付け加えてその被害と有害さに対して現代医学が明らかにした事実を用意して調べます。

第一は、レビ記 3 章と 7 章に次のように記録されています。

“あなたがたは脂肪と血とをいっさい食べてはならない。これはあなたがたが、すべてその住む所で、代々守るべき永久の定めである』」”(レビ記 3:17)、 “ 主はまたモーセに言われた、「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは、すべて牛、羊、やぎの脂肪を食べてはならない。自然に死んだ獣の脂肪および裂き殺された獣の脂肪は、さまざまのことに使ってもよい。しかし、それは決して食べてはならない。”(レビ記 7:22～24). 神様がくださった律法に獣の脂肪を食べるなと言いました。
獣の脂肪を食べてはいけない理由が何やら現代医学が明らかにしています。 血管に動物性の脂肪が入って行けば血管の壁に付いて血管が細くなって血が円滑に循環されることができなくなります。 動物性の脂肪によって心臓に分布された冠状動脈の壁が厚くなって弾力性が喪失されれば心臓の筋肉に血液供給がうまくできなくて心臓まひが起きます。 また疾病に対する抵抗力が弱化されて易しく病んで回復しにくくなります。 それだけではなく血管が細くなれば心臓の筋肉に血液をまともに供給することができなくなって狭心症ができます。 その症状では胸が凝って息苦しいとか息切れがして腕とあごで広がる痛みができます。 心筋こうそくになれば心臓筋肉で血液供給が全然ならなくて心臓の筋肉の一部が壊死されます。
脂肪によって脳血管が細くなって支えるようになって脳血流が減少されることで脳組織が機能がまともにできなくなります。 こんな状態が持続すれば脳組織が壊死されて回復不可能状態になるのにこれを脳梗塞だと言います。 脳梗塞の症状で身の一方が麻痺するとか顔面麻痺、感覚以上、発音障害などが発生します。 狭心症、心筋こうそく、脳出血、脳梗塞は高年者の死亡原因の中に高い割合を占めるのです。 その原因はいろいろあるがその中に動物の脂肪を取るのが含まれています。 レビ記 3 章 16 節には神様の愛を深く感じらせるお話があります。

“祭司はこれを祭壇の上で焼かなければならない。これは火祭としてささげる食物であって、香ばしいかおりである。脂肪はみな主に帰すべきものである。”と言いました。 健康に有益なことは彼の民に食べるようになさって、有害なことは自分の物であると言って人々が食べることができないようになさる神様の父の慈悲深いを感じさせてくれます。

二番目で、元気に生きればお酒を飲んではいけないです。

お酒による弊端と被害は甚だしいです。 飲酒の弊害は家族だけではなく社会的に莫大な苦痛と損失を及ぼさせます。 お酒を飲めば判断力と注意力、自制力が弱化または麻痺して飲酒運転、暴力事故などの危険に処するようになります。 血中アルコール濃度と交通事故率に関する実験結果を見れば、濃度 0.15% 以上の満酔状態では事故発生率が 380 倍も高いです。 大検察庁によれば性暴行の加害者の約 50%が犯罪直前に飲み過ぎたことで明かされました。 ニューヨーク州ミドルセックスの衛生検査責任者ワルレンツ博士が 27 年間検査した概要を見れば各種事故死の 41.2%がお酒のためであったし慢性アルコール中毒の中で 6%が精神病で発展します。 アルコールは頭脳の一定部分に萎縮を持って来るからお酒を飲む人々の多数が少しずつ自殺を犯していることに違いないです。
アルコールは幾多の人を高速道路で死を当たらせて人々を刺激させて殺人や自殺をさせます。
全世界的に肝臓癌などの肝の疾患が一番多い国が我が韓国です。 特に 20-50 代男死亡の原因 1 位がお酒による 肝の疾患だと言います。 それもそのはずないことは韓国人位お酒をたくさん飲む民族がいないと言うほどです。 保健福祉部の調査によれば平均的に一日に約 600 万人がビールと焼酒 1800 万本を消費して一年に焼酒 30 億本、ビール 40 億本を飲むと言います。 昔の韓国の地に足を踏んだ宣教師が昼の中にもお酒を飲んで正気でない人々を見ました。それで教会では 禁酒を制度化しました。 箴言 23 章にすると禁酒に関するお話があります。
“災ある者はだれか、憂いある者はだれか、争いをする者はだれか、煩いある者はだれか、ゆえなく傷をうける者はだれか、赤い目をしている者はだれか。酒に夜をふかす者、行って、混ぜ合わせた酒を味わう者である。酒はあかく、杯の中にあわだち、なめらかにくだる、あなたはこれを見てはならない。”(箴言 23:29～31). 神様は彼の民がお酒による健康損傷と弊害にあわないするためにお酒飲むことを禁じました。

三番目で、元気に生きようとすればタバコを吸ってはいけないです。

喫煙と肺癌の関係はとても密接です。 平均的にタバコを吸う人は非喫煙者に比べて肺癌にかかる危険が 13 倍くらい高くて、一日 2 箱ずつ 20 年間タバコを吸う場合タバコを吸わない人より肺癌で死ぬ確率が 60-70 倍増加します。
肺癌患者の 85-90%はタバコと関連があります。
喫煙は第一肺癌、喉頭癌、食道癌、胃潰瘍と極めて密接な関係があって、二番目 肺炎、流行風邪、十二指腸潰瘍、大動脈拡張、膀胱癌と密接な関連があり、三番目 冠状動脈疾患、肝硬変、その他癌に対して少なくない関連があって、四番目 脳導管障害と脳出血にもちょっと関連があります。
血液量を測定する機械によれば喫煙が心臓まひを起こすことはどんな作用のためなのかを分かります。 喫煙のため血の流れがめっきり減って動脈の損傷が起きます。
これは他の機関にも重大な障害を起こすことができます。損傷を受けた動脈は脳の中で脳出血の原因になる血の凝固を起こしやすいです。
減少された血の流れの結果で喫煙者は足に身体組織の一部が腐って機能を失う病気を得ることもできます喫煙によって生ずる有り勝ちで恐ろしいまた一つの疾病は肺気腫です。 これは肺の中にある繊細な細胞を破壊する ‘タバコ咳’のためできます。 喫煙時発生する物質の中で健康に一番有害な物質はタール、一酸化炭素、ニコチン 3 種成分だと知られています。 タールはタバコの煙を通じて肺に入って行って血液に染みこんで我が身のすべての細胞、すべての臓器に被害を与えたり、歯ぐき、氣管支などには直接作用して表皮細胞などを破壊するとか慢性炎症を起こしたりします。 一酸化炭素は血液の酸素運び能力を減退させて慢性低酸素証の現象を起こして新陳代謝と脳に障害を与えて早期老化の現状を起こします。 ニコチンはタバコの習慣性中毒を起こす麻薬性物質で早く動脈内血流の中に流れながら心臓を経て脳に運びされるのに、タバコを吸う時ニコチンが脳に到達するのにかかる時間は 7 秒くらいです。
タバコはインディアンが使ったことだったがコロンブスによってヨーロッパと全世界で広がり始めたし、ヨーロッパに初めてタバコが流行った当時有害性の論難があったが利害関係のためタバコの有害性がつけて急速に広がるようになりました。 聖書が記録される当時にはまだタバコが使われていなかったです。 しかしタバコを吸わないと言う警告に当たる句節がたくさんあります。 “あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである”(コリント人への第一の手紙 6:19)“だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。”(コリント人への第一の手紙 10:31)で記録されています。 自分の身が聖霊の宮であるのが分かったらタバコを吸って毒性物質を入れ込むのが神様の光栄のためな事であると思う聖徒はないだろう。

聖書は医学の本や科学書籍ではないです。 しかし全知全能なさった神様が啓示したお言葉です。 だから人々が事物の真相を五官で認識することができない時代にも神様のお言葉に従順すれば幾多の疾病と尚早な死から脱して元気な生を楽しむように措置しておきました。 禁酒禁煙は聖徒の標識です。 標識とは違うことと区別して分からせる特徴を意味します。 クリスチャンはお酒を飲まないでタバコを吸わない特徴を見せなければなりません。 愛する皆さんは聖書に啓示された神様のお言葉を完全に信じて従順してその恵みと福を受けるように願いします。